

宮田南小学校通信

火星がよく見えます

○ 土星

○ 火星

☆ アンタレス

○ 木星

南東

南

南西

西

福岡県では、8月はほぼ上の図のような位置に見えます。8時以降に家族で、観察してみてください。
惑星は大きく明るく見えます。南の空に大きく見える星は、火星、土星、木星です。
今年地球に火星が大接近しています。8月いっぱい天体ショーを楽しんでください。

8月6日 平和学習をしました

本日、平和学習をしました。まず8時15分前に、小松原先生の指示で、テレビをつけ、広島市の平和記念式典の様子を、平和宣言まで視聴しました。

その後は学年事に平和学習を、DVDを視聴して行いました。DVDは、次のとおりです。

- 1年 「おこりじょう」
- 2年 「つるののつて」
- 3年 「はだしのゲン」
- 4年 「月がのぼるまで」
- 5年 「子ども達の遺言」
- 6年 「子ども達の遺言」

下段は、本日の平和宣言の冒頭の文章です。

25年前、今日と同じ月曜日の朝。広島には真夏の太陽が照りつけ、いつも通りの一日が始まるうとしていました。皆さん、あなたや大切な家族がそこにいたらと想像しながら聞いてください。8時5分、目もくらむ一瞬の閃光。摂氏100万度を超える火の球からの強烈な放射線と熱線、そして猛烈な爆風。立ち昇ったきのこ雲の下で何の罪もない多くの命が奪われ、街は破壊し尽くされました。「熱いよう！痛いよう！潰（つぶ）れた家の下から母親に助けを求め叫ぶ子どもの声。「水を、水を下さい！」息絶え絶えの呻（うめ）き声、唸（うなり）声。人が焦げる臭気の中、赤い肉をむき出しにして亡霊のごとくさまよう人々。随所で降った黒い雨。脳裏に焼きついた地獄絵図と放射線障害は、生き延びた被爆者の心身を蝕（むしば）み続け、今なお苦悩の根源となっています。

中略
被爆者の訴えは、核兵器の恐ろしさを熟知し、それを手にしたいという誘惑を断ち切るための警鐘です。年々被爆者の数が減少する中、その声に耳を傾けることが一層重要になっています。20歳だった被爆者は「核兵器が使われたなら、生あるもの全てが死滅し、美しい地球は廃墟と化すでしょう。世界の指導者は被爆地に集い、その惨状に触れ、核兵器廃絶に向かう道筋だけでもつけてもらいたい。核廃絶ができるような万物の霊長たる人間であってほしい。」と訴え、命を大切に、地球の破局を避けるため、為政者に対し「理性」と洞察力を持って核兵器廃絶に向かうよう求めています。

これを機会に、ご家庭でも「平和」についてお話をしてください。本日視聴しましたDVDの内容を話題にされてもよろしいです。また、6年生は実際に修学旅行で長崎を訪れ、平和についてたくさん学んでいます。平和や原爆について深い話ができません。どうぞよろしく御願います。

始業式は 8月27日(月)です。